

気候異変に関するグテーレス国連事務総長の発言

事務局

アントニオ・グテーレス氏は、ポルトガル出身の老練な政治家です。リスボン工科大学で学び、27歳で国会議員（社会民主党系）になった後、EU評議会議員、ポルトガル首相、第10代国連難民高等弁務官を務め（緒方貞子さんは第8代）、2017年1月より国連事務総長の激職にある方です。国連事務総長として当然のことながら、環境の危機に深い憂慮を寄せ、度々発言していますが、昨年あたりから、気候の危機の深まりを受けて、以下のように、そのトーンをかなり上げています。

■2022年11月 COP27（エジプト）での開会挨拶

「時は刻一刻と過ぎていきます。私たちは生死を掛けた闘いの中にいます。そして私たちは敗北しつつあります。温室効果ガスの排出量は増え続けています。世界の気温は上昇し続けています。私たちの地球は、気候変動による混乱が取り返しのつかないものとなる臨界点へ、急速に近づいています。私たちは、気候変動地獄へと向かう高速道路を、アクセルを踏んだまま走っているのです。」

■世界気象機関（WMO）による「今年の7月は史上最も暑い夏だった」との発表（7月27日）を受けて

「地球温暖化の時代は終了し、地球沸騰の時代が到来した。リーダーたちは仕事をしなければならぬ。躊躇はもうだめだ。言い訳もだめだ。誰か他の人が口火を切るのを待つのもダメだ。その時間はもうない。1.5℃へ気温が上昇するのを止め、最悪の気候変動を回避することはまだ可能だが、それは劇的で直ちに対策を取る場合にのみ可能だ。」

■世界気象機関（WMO）による「この8月は最も暑い夏になった」との発表（9月6日）を受けて

「気候の破壊（breakdown）が始まった。化石燃料への過度の依存が何を引き起こすかについて、科学者たちはずっと警告し続けてきた。世界各地で起きている異常気象事象に対応できるスピードを超えて、地球の気候の崩壊が進みつつある。気温の急上昇を抑えるには、私たちが一斉に対策に動き出す必要がある。リーダーたちは気候問題の解決に一層熱心に取り組まなければならない。まだ気候変動による最悪の混乱を避けることはできる。ただし、一刻の猶予もない。」

■「気候野心サミット会議（Climate Ambition Summit）」（9月20日）の開会の言葉

「人類は地獄の門を開けてしまった（Humanity has opened the gates of hell.）。地獄の炎のすさまじい熱により恐ろしいことが起こっている。」